

「哲学対話フェス」全学年で実施！

大形中では、一昨年度から「哲学対話」を取組の柱の一つとして教育活動を行っています。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けて実施を見合わせましたが、今年度は、換気やマスクなどで感染防止対策を行う中で、外部から講師を招いて、2年ぶり2回目の「哲学対話フェス」を各学年で実施しました。



大形中学校 校長室だより
夢・希望・未来

そもそも、「哲学対話」って何？

1960年代にアメリカで始まった「子どものための哲学」に由来する、思考力を育てる手法で、「対話」を主な方法とします。「他の人と共に問い、考え、語り、聞く」ことを大切に、対話を通して物事の意味や価値の本質を見いだしていきます。

【「哲学対話」のルール】

- ・何を言ってもいい。
- ・人の言うことに対して否定的な態度をとらない。
- ・お互いに問いかけるようにする。
- ・発言せず、ただ聞いているだけでもいい。
- ・知識ではなく、自分の経験に即して話す。
- ・意見が変わってもいい。
- ・話がまとまらなくてもいい。
- ・分からなくなってもいい。

【「哲学対話」の進め方】

- ・10人程度のグループで輪をつくる。
- ・次の手順で、ファシリテーターが進行役となって話し合いを進める。
 - ① 疑問に思うことを自由に出し合う。
 - ② 出された多くの「問い」の中から、グループで話し合いたい「問い」を選ぶ。
 - ③ 選んだ「問い」について、自由に考えを言い合う（新たな「問い」につなげてよい）。
 - ④ 仲間の考えを聞き、自分の考えを深める。

「哲学対話」本来の目的はあるものの、今回は「安心して、考えや思いを言い合う」ことや、「自由に話し、聞く中で、仲間同士で話し合うよさを実感する」「活動を通して、お互いを大事にしようとする雰囲気高める」といったことも大切にして活動を行いました。

「哲学対話フェス」を、今後はどうつなげていくかが大事！

話し合われた「問い」は、学年・グループによって様々でしたが、自由に考えを言い合う中で、自分自身を見つめ直したり、仲間の新たな一面を発見したりと、多くの生徒にとって有意義な時間となったように思います。

答えのない「問い」も多くありました。実はこの「正解のない問い」について話し合うことが哲学対話の醍醐味なのかもしれません。仲間の発言から発見したいろいろな「なるほど！」や、深く考えることによって見えてきた「自分の根底にある考え方」など、ふだんの授業などでは得られないものを得ることができたのではないのでしょうか。そして、「物事の本質に迫れたかも」「物事の価値を見出したかも」と感じる事ができたら、それも素晴らしいことですね。

話し合った「問い」(例)

- ・人はどうして生きるのか？
- ・「普通」ってなんだろう？
- ・なぜ人は人を好きになるのだろう？
- ・なぜ制服を着なければいけないの？
- ・差別と区別のちがいはなんだろう？
- ・どうして空は青いのか？
- ・神様はいる？いない？
- ・友達は、どこから友達なのか？
- ・どうして校則があるのか？
- ・人は死んだらどうなるの？

今回の哲学対話フェスを、これからの学校生活に生かしていきましょう。

- 安心して話せるっていいな… → この雰囲気を、これからの仲間とのかかわりでも大切にしよう！
- この「問い」って、哲学対話で終わらせていいの？ → 学校生活の改善に向けて、行動に移そう！

